

福祉社会学会第3回大会プログラム

日程	2005年6月25日(土)・26日(日)
会場	北星学園大学
参加費	事前振込 3,000 円、当日 3,500 円
懇親会費	一般 4,000 円、学生 3,000 円

第1日目 6月25日(土)

10:00～11:30	理事会	【A520教室】
11:30	受付開始	
12:30～13:20	総会	【A503教室】
13:30～16:50	パネルディスカッション 「べてるの家」の福祉社会学 自由報告 第1部会	【A503教室】 【A502教室】
	13:30～14:05：第1報告 14:40～15:15：第3報告 15:50～16:25：第5報告 14:05～14:40：第2報告 15:15～15:50：第4報告	
17:30～19:30	懇親会	【大学会館3階食堂】

第2日目 6月26日(日)

09:30～12:25	自由報告 第2部会 第3部会	【A502教室】 【A504教室】
	09:30～10:05：第1報告 10:40～11:15：第3報告 11:50～12:25：第5報告 10:05～10:40：第2報告 11:15～11:50：第4報告	
12:25～13:30	昼休み	
13:30～17:00	シンポジウム ソーシャル・ガバナンスの可能性	【図書館4階A教室】

・本プログラムに変更が生じた場合は、学会公式サイト(<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~ws>)でお知らせしますので、適宜チェックをお願いします。

第1日目 6月25日(土)

12:30~13:20 総会

【A503】

13:30~16:50 パネルディスカッション

【A503】

「べてるの家」の福祉社会学

司会：野口裕二（東京学芸大学）

報告者：

- | | |
|-------------|----------------------|
| べてるの家の物語（1） | 向谷地生良（べてるの家／北海道医療大学） |
| べてるの家の物語（2） | 清水里香（べてるの家） |
| 地域福祉論の立場から | 牧里每治（関西学院大学） |
| 障害学の立場から | 石川 准（静岡県立大学） |

13:30~16:50 自由報告

<第1部会>

【A502】

司会：鎮目真人（同志社女子大学）

1. R.H.トーニーの倫理的社会主義思想 イギリスの社会福祉におけるその伝統
香川重遠（上智大学大学院）
2. 社会福祉の基底にある価値（観）に関する考察 社会福祉の範疇を規定する要因の観点から
寺田貴美代（清和大学短期大学部）
3. 「福祉社会」構想の課題 シティズンシップ概念の再構成に向けて
亀山俊朗（大阪大学大学院）
4. 福祉国家体制確立期における「日本型福祉国家レジーム」
自治体福祉政策過程の分析を通して 金智美（お茶の水女子大学大学院）
5. ヘルスケアの産業モデル：企業の市場行動における社会理論側面の検討
稲垣伸子（中京大学大学院）

17:30~19:30 懇親会

【大学会館3階食堂】

第2日目 6月26日(日)

09:30~12:25 自由報告

<第2部会>

【A502】

司会：三重野卓（山梨大学）

1. ワークフェア政策の実際 カリフォルニア州リバーサイド郡の事例を通して

小林勇人（立命館大学大学院）

2．コミュニティ資源の活用過程 フィンランド高齢者地域福祉の現場から

高橋絵里香（東京大学大学院）

3．生活保護現業員の業務負担・自立支援に対する意識 担当ケース数との関連を中心に

森川美絵（国立保健医療科学院）

4．日本における人身売買の現状と政府の対応に関する一考察

萩原康生（大正大学）

5．ケア職員の専門性と施設ケア秩序 介護老人保健施設の場合

吉岡なみ子（お茶の水女子大学大学院）

< 第3部会 >

【A504】

司会：藤村正之（上智大学）

1．高次脳機能障害のある人にとっての施設利用が果たす役割

進士恵実（国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所）

2．障害者を主体とする自立生活センターが行う介助派遣の位置 東京都S区の団体を事例として

丸岡稔典（東京工業大学大学院）

3．老親と子供が離れて暮らすことの社会学 「遠距離介護」の分析から

中川敦（早稲田大学大学院）

4．韓・日高齢者の健康度自己評価と関連要因について

金貞任（東京福祉大学）

5．「自分史は生きものです」 遺児の“分かちあいの会”で先導役を務めた経験を聞く

時岡新（金城学院大学）

13:30～17:00 シンポジウム

【図書館4階A教室】

「ソーシャル・ガバナンスの可能性」

司会：平岡公一（お茶の水女子大学）

杉岡直人（北星学園大学）

報告者：宮脇 淳（北海道大学大学院）

武川正吾（東京大学大学院）

野口定久（日本福祉大学）

討論者：要田洋江（大阪市立大学大学院）

白波瀬佐和子（筑波大学大学院）

パネルディスカッション要旨：「べてるの家」の福祉社会学

【A503】

司会：野口裕二（東京学芸大学）

精神障害者の新しいコミュニティとして注目される「べてるの家」。「苦勞をとりもどす」、「偏見・差別大歓迎」、「安心してさぼれる会社づくり」、「昇る生き方から降りる生き方へ」、「弱さを絆に」などなど、そこには数々の魅力的なキーワードがある。これらのキーワードはわれわれに一体何を語りかけているのか。福祉社会学は「べてる」から何を学び、「べてる」は福祉社会学から何を学ぶことができるのか。「べてる」と「社会学者」の対話という形を通してこの問題を考えてみたい。

報告者：

- | | |
|-------------|------------------------|
| べてるの家の物語（1） | 向谷地生良（べてるの家 / 北海道医療大学） |
| べてるの家の物語（2） | 清水里香（べてるの家） |
| 地域福祉論の立場から | 牧里每治（関西学院大学） |
| 障害学の立場から | 石川 准（静岡県立大学） |

シンポジウム要旨：ソーシャル・ガバナンスの可能性

【図書館4階A教室】

司会者：平岡公一（お茶の水女子大学）
杉岡直人（北星学園大学）

中央政府や地方政府による従来型のガバナンスに加え、NPO やボランティア組織など多様な市民組織による参加民主主義を通じたソーシャル・ガバナンスが胎動しつつある。

福祉サービスにあっても、政府の一元的な計画や供給から脱却し、地域コミュニティ、NPO、当事者団体などの市民組織がサービスの供給や計画に参画するようになってきている。こうした流れは地方分権改革をはじめとして、福祉分野では介護保険、支援費支給制度などにおける諸改革で後押しされている。

そこで、ソーシャル・ガバナンスといった市民組織による自立的な活動が発展する可能性について様々な側面から探りたい。具体的には、ソーシャル・ガバナンスの基礎にあるべき市民の社会的連帯、ソーシャル・ガバナンスのステージとなる地方自治体の行財政、福祉分野におけるソーシャル・ガバナンスとして地域福祉、のそれぞれの現状や課題について議論を深め、その展望について考えてみたい。

報告者：宮脇 淳（北海道大学大学院）
武川正吾（東京大学大学院）
野口定久（日本福祉大学）

討論者：要田洋江（大阪市立大学大学院）
白波瀬佐和子（筑波大学大学院）

自由報告部会 報告要旨

<第1部会>【A502】

司会：鎮目真人（同志社女子大学）

1．R.H.トーニーの倫理的社会主義思想 イギリスの社会福祉におけるその伝統

香川重遠（上智大学大学院）

イギリスの社会民主主義思想の根底に延々と流れている思想のひとつに倫理的社會主義がある。ピンカーは、現在のイギリスのブレア新労働党の「第三の道」は、前保守党政権を踏襲した新自由主義と、トーニーに代表される倫理的社會主義との折衷モデルであるという。本発表では、トーニーの著書をもとにその倫理的社會主義思想を概観し、イギリスの社会福祉におけるその伝統についての考察を試みることにしたい。

2．社会福祉の基底にある価値（観）に関する考察 社会福祉の範疇を規定する要因の観点から

寺田貴美代（清和大学短期大学部）

普遍主義、利用者本位などの理念の拡がりに伴い、社会福祉の範疇は大きく変化した。しかし現実には、生活問題に直面する全ての人々に、問題を解決・緩和・軽減するための社会的手段が提供されるわけではない。そこで、社会福祉を広義に捉え、近年の変化を視野に入れつつ、社会福祉の基底にある価値を明らかにする。それにより、社会福祉の範疇を規定する要因を考察する（本学会誌第1号に発表した論文の考察を深める内容である）。

3．「福祉社会」構想の課題 シティズンシップ概念の再構成に向けて

亀山俊朗（大阪大学大学院）

福祉社会の構想では、福祉は国家だけではなく市民社会によっても提供される。福祉にかかわる市民社会の諸活動 - 経済活動、自助活動、公論形成の活動 - は、シティズンシップの諸権利 - 市民的権利、社会的権利、政治的権利 - と関係する。福祉社会の構想は人びとの自発性を重んじ、シティズンシップの再構成をはかる。そこでは福祉国家のパターナリズムが批判されるが、同時に「自発的でない」人びとの存在という課題が提起されうる。

4．福祉国家体制確立期における「日本型福祉国家レジーム」 自治体福祉政策過程の分析を通して

金智美（お茶の水女子大学大学院）

日本の福祉国家研究においては、1960・70年代の福祉国家体制確立期における福祉国家の政策拡大の要因やその帰結についての分析が不十分であるといわざるをえない。こうした現状を踏まえて本報告では、日本の福祉国家体制確立期における社会福祉政策（具体的には、保育政策、障害者福祉政策、高齢者保健福祉政策）の拡大を取り上げて、とくに自治体の福祉政策過程の分析を中心に、日本の福祉国家拡大の要因や帰結についての社会学的分析を行い、日本型福祉国家をめぐる新たな知見を提示する。

5. ヘルスケアの産業モデル：企業の市場行動における社会理論側面の検討

稲垣伸子（中京大学大学院）

介護保険制度の事業所の行動は公・私企業として経済原理と社会原理に基づく。不完全市場を形成する財について、概ね経済的な採算と効率性が求められ、顧客便益の提供と社会共生が目的化される。一般に企業は主体性及び自律性及び制約を持ち、環境要因から規定される。サービス品質と企業間協調について、この総体的な枠組みに立ち、効用ある競争や革新への活力を、規範や力との関係性において、複眼的に捉える接近法を提起する。

<第2部会>【A502】

司会：三重野卓（山梨大学）

1. ワークフェア政策の実際 カリフォルニア州リバーサイド郡の事例を通して

小林勇人（立命館大学大学院）

本報告では、米国における保守派が主導する新保守主義改革の下で、福祉受給者に強制的な就労を課すという意味でのワークフェア構想が、制度的に実現されていく過程を事例を交えて述べる。新保守主義勢力台頭の背景をカリフォルニア州に焦点をあて、リバーサイド郡の福祉改革プログラムの事例から考察する。同プログラムの手法はリバーサイド方式と呼ばれ、地方・州・連邦政府レベルで増幅しながら制度化され就労要請を強化した。

2. コミュニティ資源の活用過程 フィンランド高齢者地域福祉の現場から

高橋絵里香（東京大学大学院）

本発表では、人類学的な長期間の現地調査を元にして、フィンランドの1自治体における高齢者向けホームヘルプサービスの模様を紹介する。地区ごとに分かれたホームヘルパーたちが、どのようにして協力・情報交換の態勢を築き、地域のNGOや教会組織、親族といった人的資源を活用しているのか。それを通して、フィンランドの社会的特徴が福祉の現場に与える影響、多文化社会における地域福祉、そして地域福祉を調査する研究者の視点の所在について明らかにしていきたい。

3. 生活保護現業員の業務負担・自立支援に対する意識 担当ケース数との関連を中心に

森川美絵（国立保健医療科学院）

日本の生活保護制度は、被保護者数の増加や被保護世帯の抱える問題の複雑化に直面する一方、担当職員の配置数不足や専門性の課題などのため、個別の対応や保護の長期化防止に向けた支援が不十分ではないか、との指摘がある。本報告は、福祉事務所現業員を対象とした共同調査「生活保護業務の改善方策に関する意識調査」の結果にもとづき、現業員の業務負担感や自立支援の自己評価について、担当ケース数との関連を中心に検討する。

4. 日本における人身売買の現状と政府の対応に関する一考察

萩原康生（大正大学）

日本で外国籍女性の人身売買は関係者の間では大きな関心事であったが、政府はほとんど関心を示してこなかった。しかし、2004年のアメリカ国務省発表の人身売買報告で日本が要監視国に指定されてから、急遽対策が立てられた。この対策は、フィリピンの出稼ぎ女性をスケープゴートにし、密入国等の問題を等閑に付したものである。本報告ではこの対策の問題点を明らかにし、グローバルゼーションの中で発生する社会福祉問題への対応を検討する。

5. ケア職員の専門性と施設ケア秩序 介護老人保健施設の場合

吉岡なみ子（お茶の水女子大学大学院）

介護保険法が施行され、医療とケアが総合的に提供されるシステムが整った。しかしながら、介護職員と看護職員の専門性の不明確さや医療的な対処権限の違いは、ケア職員の協働に困難を生じさせている。そこで本研究は、ケア職員の間で展開される相互作用とそこでの解釈過程に注目し、集合的な施設ケアを方向づける秩序性を明らかにすることを目的とした。方法は、参与観察とインタビューを用い、ケアの専門性という観点で考察をした。

< 第3部会 > 【A504】

司会：藤村正之（上智大学）

1. 高次脳機能障害のある人にとっての施設利用が果たす役割

進士恵実（国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所）

高次脳機能障害とは、頭部外傷や脳血管障害などによる脳の損傷の後遺症として記憶障害や遂行機能障害などの認知障害が生じることである。本報告は、全国の施設利用を行う高次脳機能障害のある人に関して調査を行い、高次脳機能障害者がどのような施設支援を受けているのかを明らかにした。その結果をもとに、高次脳機能障害者にとっての施設利用が果たす役割について検討する。

2. 障害者を主体とする自立生活センターが行う介助派遣の位置 東京都S区の団体を事例として

丸岡稔典（東京工業大学大学院）

障害者を主体とする自立生活センターは、「障害者の自立生活の実現」を目的とし、当初福祉制度の枠外の補完的な活動を行っていたが、制度の変化により、活動が制度枠内に位置を変えつつある。本報告では、東京都S区に存在する自立生活センターに焦点を当て、介助派遣を中心とした活動内容の変容を検証することを通じて、自立生活センターが、どのようにして制度と自らの活動と自らの理念の統合を試みているのかを明らかにする。

3. 老親と子供が離れて暮らすことの社会学 「遠距離介護」の分析から

中川敦（早稲田大学大学院）

老親介護の問題は、同居や近居の子だけではなく、遠居の子も直面する可能性が増している。それゆえ「老親と離れて暮らすこと」自体が、介護問題に直面した子にどのように経験されているのか考察される必要がある。本報告では「遠距離介護」を行っている子の言説の分析を通じて、「老親と離れて暮らすこと」が子供達に負の意味をもって経験されることを強調しつつ、そうした負の意味が軽減される可能性を指摘する。

4. 韓・日高齢者の健康度自己評価と関連要因について

金貞任（東京福祉大学）

研究目的：高齢者が自らの老いの過程のなかで、いかに精神的・身体的健康のバランスを保ちながら自己を失わず、自立した生活を維持することができるかは非常に重要な課題である。本研究は、韓・日高齢者の健康状態と関連要因について比較分析することを目的とする。

研究方法：調査の実施時期は2001年であった。調査対象者は、60歳以上の高齢者であり、韓国が1005人、日本が1150人であり、有効票はそれぞれ100%であり、それらが本分析の対象となった。

<本研究は、内閣府が実施した「高齢者の生活と意識（第5回国際比較調査）」の調査結果の一部であり、本データの使用を許可していただいた内閣府関係者にお礼申し上げます。>

5 .「自分史は生きものです」 遺児の“分かちあいの会”で先導役を務めた経験を訊く

時岡新（金城学院大学）

病気、災害、自死などで父親、母親の他界した遺児たちによる“分かちあいの会”に取材し、「自分史」語りの先導役を務める年長者の意識、経験を訊いて解析する。

かれらは、死別体験やその後の心情を、たがいに話し、聴く作業をとおして対象化あるいは改編しようと試みている。そうした企図の詳細、そこで用いられる「自分史」語りの方法について、かれら自身の自覚を材にとり、解釈をくわえる。

福祉社会学会第3回大会のご案内

1. 学会大会の参加申し込みについて

大会参加申し込みは、当日の受付においても可能ですが、迅速な事務手続きのためにできるだけ事前にお申し込みいただきますようお願いいたします。

(1) 参加申し込み方法

以下のいずれかの方法によって、2005年6月10日(金)までをお願いいたします。

同封の葉書きに切手を貼付していただき、必要事項を記入の上送付する。

http://www.ipc.hokusei.ac.jp/~z00307/ws2005 上の申し込み用紙に必要事項をお書きの上、Eメール

に添付して、ws2005@hokusei.ac.jp まで送付する。(ファイル添付をせず同様の内容のみをご連絡いただいても結構です。)

http://www.ipc.hokusei.ac.jp/~z00307/ws2005 上の申し込み用紙に必要事項をお書きの上、印刷して

いただき、011-894-3690 までファックスする。

(2) 諸費用の払い込み

こちらにつきましても、事務手続きの簡素化のために事前に振り込んでいただければ幸いです。振替口座、および各費用は以下のとおりです。なお、事前振込は、2005年6月10日(金)までをお願いいたします。(なお、振替手数料はご負担願います。)

振替口座：02740-2-63577

「福祉社会学会第三回大会実行委員会」

大会参加費	事前振込み	3,000 円
	当日	3,500 円
懇親会費	一般	4,000 円
	学生	3,000 円
昼食(26日分)		800 円

2. 会場への交通案内

会場：北星学園大学(〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2-3-1)

新千歳空港からは、最寄の札幌地下鉄大谷地(おおやち)駅まで、高速バスがあります。

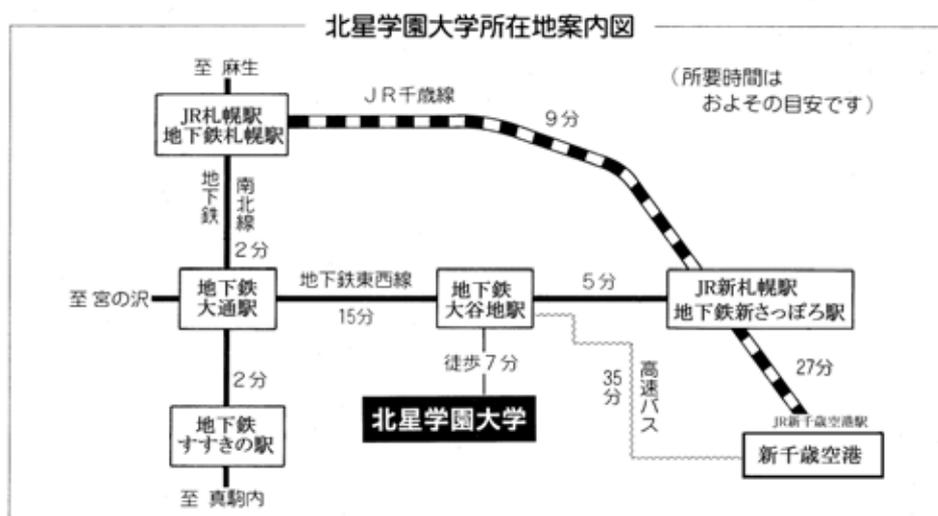
地下鉄：札幌市営地下鉄東西線・大谷地駅1番出口からサイクリングロードを歩いて7分ほどです。

タクシー：JR「札幌」駅より40分、3,000円程度。

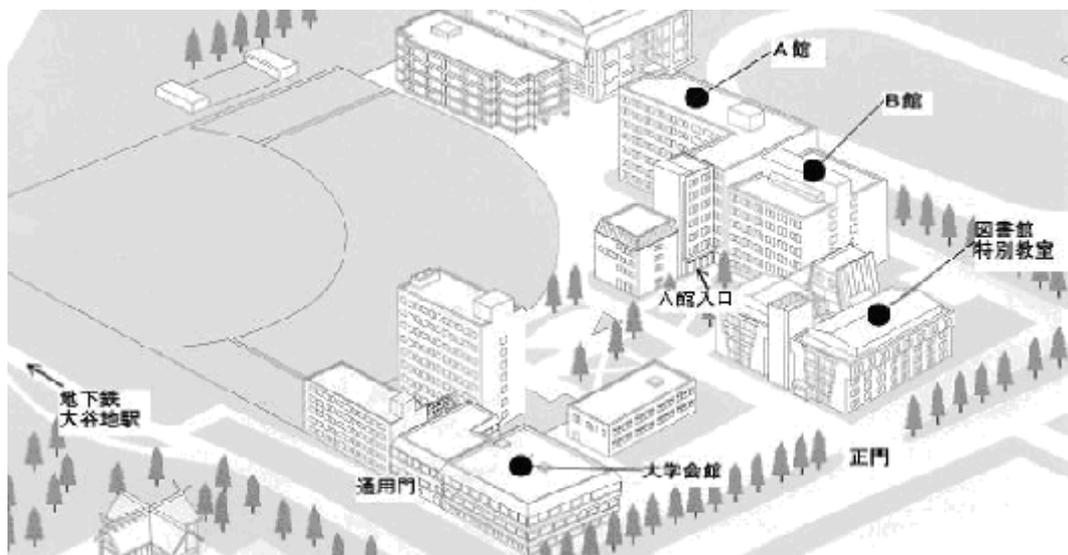
JR「新札幌」駅より10分、1,000円程度。

(時間、料金、いずれも、昼間の目安の運賃です)

なお、自家用車でお越しになる場合は、必ず事前に実行委員会まで、ご連絡ください。



大学内案内図



3. 大会に関する連絡先等

学会大会のみならず、可能な限り、さまざまな情報をお伝えできればと思っています。お気軽に、お尋ねください。

福祉社会学会第三回大会実行委員会

〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2-3-1

北星学園大学社会福祉学部 中田研究室気付

E-Mail : ws2005@hokusei.ac.jp

電話 : 011-891-2751 (ex.1404) (ダイヤルイン)

ファックス : 011-894-3690

大会参加者の方々へのご案内

1. 受付について

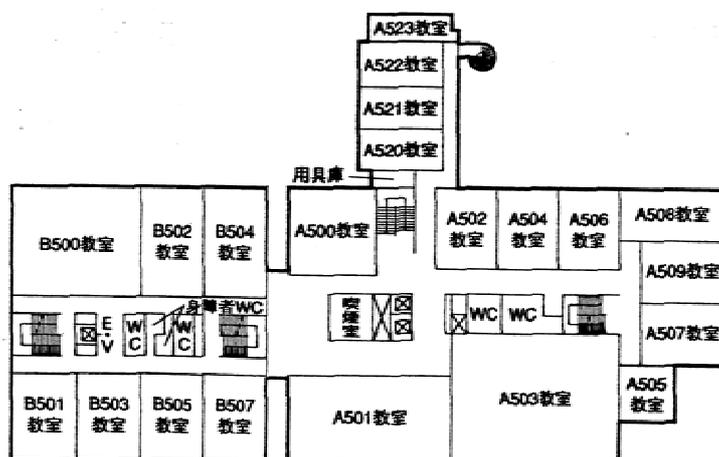
受付は、6月25日(土)11時30分からA館5階A500教室にて行います。

A館に入った後、エレベータで5階までお上がりください。なお、受付は、大会期間中、随時行っておりますが、懇親会、シンポジウムの際は、その会場で行うことがあります。

大会期間中は、参加者名札を必ずお付けいただきますようお願いいたします。

なお、会場において、クローク(A500教室)・休憩室(A509教室)を用意しておりますので、どうかご利用ください。

A館、およびB館5階平面図



2. 自由報告について

(1)大会の円滑な運営のために、発表時間を守っていただくよう、お願いいたします。

(2)発表に使用可能な機材は、

PC (PC本体は、こちらで用意いたします)

OHC

ビデオ

です。

事前に、どのような機材を使用する予定かを、ws2005@hokusei.ac.jpまでお知らせください。

なお、PCでご発表される場合、フラッシュメモリー、CD-ROM、3.5インチフロッピーディスクのいずれかの媒体で、使用されるファイルをお持ちください。また、やむを得ず機材が利用できない場合もあるかもしれませんので、必ず、紙に印刷した発表資料を予備としてお持ちください。

(3) 当日は、セッション開始前 15 分前に、会場に配置されている担当者に、レジュメ等の配布資料をお渡しの上、使用する機材の使用方法の確認を行ってください。

(4) なお、発表される場合の、機材の操作は各発表者側でお願いいたします。

3 . その他

(1) 食事について

26 日(日)の食事について、お弁当をご用意させていただきます。800 円を、事前振込み、もしくは大会当日の受付でお支払いください。なお、25 日(土)については、13 時 30 分まで、大学会館 3 階の食堂がご利用いただけます。

その他、徒歩 5 分ほどの地下鉄大谷地駅前周辺には、コンビニエンスストア、および、いくつかの食事ができる店があります。それらの情報が必要であれば、大会関係者にお尋ねください。

(2) 喫煙について

基本的に、建物内は禁煙になっておりますが、会場内には、喫煙室が設置されています。また、1 階の A 館と B 館の間の通路に灰皿がおりてあり、そこでも喫煙が可能です。

(3) 売店について

土曜日は、大学会館 1 階の生協が 2 時まで利用できます。なお、日曜日につきましては、生協は閉店しております。

(4) 飲み物、自動販売機

いくつかの飲み物は、休憩室 (A 5 0 9) においてあります。その他、飲み物の自動販売機は、1 階の A 館と B 館の間の通路にありますので、ご利用ください。

(5) 自家用車の利用

自家用車でお越しになる場合、事前に実行委員会へ必ずご連絡いただきますようお願いいたします。